

2015地域づくり講演会

6月14日、「2015 地域づくり講演会」として、島根県雲南市で進められている、小規模多機能自治の取り組みについて、市職員 藤本万葉さんにお話を頂きました。

雲南市は、平成16年に6町村で合併し誕生した市で、7町村で合併した郡上市と人口的にもほぼ同じ規模の中山間の自治体です。

また、高齢化率が約33%と高く、日本の平均水準を20~25年先行していて、人口減少と少子高齢化によって、地域社会崩壊の危機が予想されていました。

地域自主組織のポイント

- 自らの地域は自ら治める！（住民自治）
- “地縁”でつながる様々な人、組織、団体が連携し、相乗効果を発揮！（地域の総力）
...子どもから高齢者まで、性別に関わらず。
...単自治会だけでは解決が困難なことを解決！
- イベント型から課題解決型へ！
※イベントにも、何らかの目的があるはず
- 地域力（個性）を活かすこと！



そこで市は、まちづくりの基本姿勢として、市民が主体的に関わる「協働のまちづくり」＝住民自治によるまちづくりを位置づけ、平成17年度から新たな地縁モデルの結成をしました。**(地域自主組織の設立)** その組織は、小規模多機能自治と呼ばれています。



平成22年度からは、活動拠点も公民館から交流センターへ移行し、より幅広い市民活動（地域づくり、地域福祉、生涯活動を横断する）を役所の所管課と連携して進めるために、新たに地域づくり担当職員を配置し進めている。

25年度～制度改善による活動基盤の強化

- ・交流センター職員と地域自主組織の一体化
地域自主組織による直接雇用
- ・地域福祉の見直し
福祉推進員を社協による委嘱から地域自主組織会長の指揮命令系統へ
地域自主組織の福祉部門を地区社協とみなす。

地域の窓口一本化へ

- ・今後の地域への協議・連絡ルート 地域自主組織連絡協議会⇔各地域自主組織⇔各自治会
(地域自主組織連絡協議会…各地域自主組織の代表者と行政の代表者による会議)
- ・地域と行政の協議の場
地域と「直接的・横断的・分野別で」協議→円卓会議方式を導入

雲南市のこれから 新しい公共の創出

市民と行政がパートナーに（垂直的關係から水平關係に）→協働のまちづくり
小規模多機能自治の進展→開かれた公共へ

地域自主組織の概要

- ・小学校区域（顔の見える範囲）で編成し、地域課題を自ら解決
- ・1人1票制に近づける（自治会は1世帯1票制）
- ・様々な事務局の機能を兼ねることで、地域活動の6次産業化
- ・いろいろな組織や団体の長所を活かし、補完し合う。